

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人大和しらかし会 児童発達支援事業どんぐり		
○保護者評価実施期間	令和7年10月3日		～ 令和7年10月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和7年8月1日		～ 令和7年8月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた専門的な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員各々の意見や考えが自由に話せる風土づくり</li> <li>所内での勉強会や外部研修の奨励</li> <li>得た知識を職員間で共有しあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論に基づいて説明できるスキルの習得(保護者が関連機関への働きかけ)</li> <li>専門性の確保として研修奨励と人財育成の強化</li> </ul>
2	子育てにおける相談や助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に繋がるような支援を心がけている</li> <li>保護者の家庭力向上に繋がる助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が家族支援が担えるように人財育成を強化</li> <li>家庭生活や保育所等の生活に繋がる、生きた視点の習得</li> </ul>
3	関連機関との連携と目標を同じにしたうえで、こどもと家族の最善を考えた支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連機関への訪問やケース会議に積極的に参加</li> <li>なるべく連携をして、子どもの臨床像を共有できるように努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が連携できるようなスキルを身につけていくこと</li> <li>全ケースについて連携は難しいため、必要に応じて実施していく</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時代に合った通信手段(SNSやホームページなど)の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>共働き家庭も多く、迅速な電話連絡ができないことも多い。一方で、通信手段が多岐に増えると対応できる職員が限られてしまう。</li> <li>親子同伴であるため、利便性の高い通信手段の利用の必要性がやや低い。</li> <li>定期的なホームページの更新やどんぐり通信の発行ができずにいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在利用しているLINEでの通信手段、グループフォームなどの活用は継続。</li> <li>定期的なホームページ更新は、負担にならない回数を決め実施していく。</li> </ul>
2	地域交流や保護者交流の機会提供の弱さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児や利用ご家族はそれぞれに地域交流をされているため、事業所独自の必要性を感じられない。</li> <li>今年度は職員の人手が足りず、懇談会などの実施を見合わせている。保護者同士を橋渡しできるようグループ内でのやりとりには気を配っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを決めて懇談会が企画できないか、年間計画を立てて決定していきたい。</li> </ul>
3	非常時への対応に対する家族への周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示はしているものの、気に留めてもらっていない保護者も多い</li> <li>契約時に説明はしているものの、説明内容が煩雑で理解しがたい部分もあるかもしれない</li> <li>非常時に対する複数のマニュアルが存在し、職員も十分に把握できていないこともある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に避難訓練を実施していることを継続。</li> <li>要点を押さえた説明に努める。</li> <li>職員とは定期的に読み合わせを実施。</li> </ul>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人大和しらかし会 児童発達支援事業どんぐり

公表日 令和 8年 1月 15日

利用児童数 29名

回収数 17

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1			・人が増えたので、せまい。 ・子どもたちは十分あそべていると思います。	・ご意見ありがとうございます。スペースには限りがあるため、子どもたちが1つの場所に集中しないよう各スケジュールを調整しています。以降も十分なスペースが確保できるよう努めてまいります。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17				・面談時に職員がついてくださっている。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17				・子どもにとってわかりやすいと思う。	・ありがとうございます。経年劣化で修繕が必要な部分（パーテーションなど）もありますので、日々点検しながら過ごしやすい環境に努めてまいります。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17					・お子さんの発達とともに支援内容を変えています。そのため以前に対応や関わりと違う支援内容に疑問をお持ちのときは、お気軽にお聞きください。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16			1		・支援プログラムは大和しらかし会のホームページに公表しております。	
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					・個別支援計画についてご不明点や気になることがありましたら、是非職員にお声かけください。現在の様子について教えていただくことで、目標や支援の方法を見直す重要な機会になります。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16				1	・家族支援にも力を入れておりますが、全利用者ご家族への十分な取り組みができていたとは言えません。お困りごとや気になることがありましたら、相談先の1つとしてご活用くださいませ。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17					・子どもの特性に合わせてできていると感じる。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1				・いろいろな活動があって、子どもも楽しそう。 ・繰り返しやることで身につくこともあるかと思いますが、それと固定化の違いがわからなかったです。	・ご意見ありがとうございます。繰り返すことで身につく側面もあるため、お子さんご様子に応じてあえて固定化したプログラムを提供する場合もあります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	4	3	6	4			・保育園や幼稚園などに通っているお子さんが利用しているため、地域交流の機会は十分に得ていると考えております。充実した保育所などの生活ができるよう、今後も必要に応じて担任や先生方との連携を実施していきます。
保 護 者 へ の 説 明	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16				未回答1	・説明内容が多岐にわたり、煩雑となりやすいため、ご不明なことがありましたら、お気軽にお尋ねいただければと思います。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17					・オンライン講座を聞いて、とても親として勉強になっています。歯科を探すのに困っていたときに、療育歯科相談を教えてください、助かりました。	・研修会の情報はLINEや掲示をしております。引き続き実施していく予定です。是非、ご活用ください。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17					・ほぼ毎週あり、ありがたいです。 ・毎回の相談の中で、家庭で実践してできるようになったこともたくさんあります。 ・毎回、相談にのってくださり、助かっています。	・ゆっくりお話しがしたいときなどは、面談を受け付けておりますので、是非ご活用ください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	1				・明るくお話ししてくださって、安心します。	

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	5	2	5		・懇談会については職員体制によりまだ開催できていませんが、時期をみて実施したいと思います。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	2		3	・LINEでの連絡ができ、電話もできて、わかりやすい。	・今年度はどんぐり通信が発行できておらず、定期的な発信ができるよう改善してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1		3		・マニュアルは皆様の目につく場所に掲示しています。ご不明な点がございましたら、お声かけください。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	2		4		・約3か月に1回の頻度で避難訓練を実施しています。活動のなかの一部として実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1		3		・上記訓練時に子どもの安全確保のための計画の見直しを行っております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	3		6		・保護者と同伴のグループですので、事故が生じた場合は怪我の状況を保護者と一緒に確認し、適切な処置および対応ができるよう、定期的な訓練を行っています。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17				・とても楽しんで通所しています。 ・担当の先生が変わっても、活動に取り組んでいるので、安心しているのかと思います。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16			1	・ことばにしないので、わからないのですが、入室するときに泣くことなく、活動中に笑顔が見られることが多いので、嫌ではないかと思えます。 ・今日はどんぐりだと伝えると、とてもうれしそうです。先生方のことも大好きで、活動も楽しめています。 ・とても楽しく通っています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	17				・どんぐりに通うようになってから、自信を持って行動できるようになりました。 ・週に1回の通所で、子どもは繰り返しの練習や生活面で必要なことをたくさん学べていると思います。親は先生たちとお話することで、心の支えになっており、とても感謝しています。	・事業へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。よりよい支援への改善策を検討しつつ、ご本人とご家族が安心して通える雰囲気は今後も職員一同心がけてまいります。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人大和しらかし会 児童発達支援事業どんぐり				
				公表日	令和 8年 1月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・部屋を分けたり子どもを入れ替える形で適切なスペースが確保できるように配慮している。	・建物の構造的制約や経年劣化については、定期的な点検と活動内容の調整、児の入れ替えに配慮していく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・利用人数や子どもの特性に応じてグループに入る職員数を調整している。また密にならないように配慮もしている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・お子さんに合わせた支援を都度考え、講じている。 ・必要に応じてパーテーションを利用している。	・パーテーションの経年劣化については、順次新調していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動に合わせた空間調整に努めている。	・ここ数年の夏場の暑さについての対応策を検討していく必要がある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・個別のスペースや個室など、状況に応じて利用している。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・グループ前は、職員全員で活動の流れと注意点を確認している。グループ後は振り返りと情報共有、支援方法の検討を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者のご意見や意向については、全職員に周知し、検討し、業務改善に繋げている。	・毎日出勤しない職員には、情報の漏れが生じないように気を配ることを継続、
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・日々、意見が言いやすい雰囲気大切にしており、月1回の職員会議やグループの振り返りなどで業務改善に繋がる話題が出ている。	・職員同士が腹藏なく建設的な意見が言える風土づくりに努めていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・法人として行っている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内外の研修に参加している。 ・法人としe-ラーニングを導入しており、いつでも資質向上が実施できる機会を確保している。	・研修の受講にあたり、支援を外れるため、職員体制を柔軟に調整できるようになることが目標。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・各種の情報や検査結果および保護者へのアンケートを複合して課題を抽出し作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・こどもの最善の利益を考慮した検討に努めているつもりであるが、限りがないため、今後も多角的視点から検討をしていきたい。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・グループ前には、必ず個別支援計画の読み合わせを行い、計画に沿った支援のシュミレーションをしている。	・支援計画によっては抽象度が高い目標があり、職員によって理解の度合いが異なるため、計画立案を工夫していく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・フォーマル、インフォーマルのどちらも使用し、子どもの実態に沿った支援ができるように努めている。	・インフォーマルアセスメントは職員間で差異が生じやすいため、一定の資質が保てるよう検討をしていく。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			・保護者と面談できる職員を増やしていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			・チームで立案しているが、アイデアが固定化しないよう工夫することが課題。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		・活動が固定化しないように工夫しているものの、行動定着を目的にあえて固定化させる場合もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		・打合せを大切にしており、役割分担や連携方法について話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		・必ず振り返りを行い、次の支援方法を検討している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・職員間で確認しあって正しく記録を取るようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		・関連機関との連携は非常に大切な1つと考えており、会議に参加する前に職員の間で考えをまとめる機会を設けている。	・関連機関とのやりとりは、打ち合わせや記録として職員間で共有するものの、タイムラグが生じてしまい、リアルタイムでの職員間の共有が課題。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		・同上	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		・同上	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		・全ケースではなく、必要に応じて実施し、切れ目のない支援ができるように努めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		・全員保育所等に通っており地域交流は十分に得ていると考えている。交流するうえでの経験やスキルの習得を実施している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		・保護者同伴で来所してもらい、子どもの状態や特性を一緒に話し合っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		・法人全体として家族の対応力向上に力を入れており、研修を案内や情報提供をしている。	・ご案内が1か月前程度のこともあり、お仕事をされている親御さんに向けて、先々の予定を早めに教えてくることが課題。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		・子どもの意向が盛り込める場合にはその限りではない。また、ご家族の意向は必ず聴取している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・親父の会は同法人で集まりをしている。また参観と懇談会を催し、交流する機会を設定している。	・きょうだい同士で交流する場は設けていないため、該当家族がいる場合は、交流できる機会の案内ができるようにしている。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・契約のときに、苦情（ご意見など）についての案内と、窓口を必ず説明している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・法人の会報は定期的に発行している。 ・お知らせなどLINEを活用している。	・どんぐりだより（事業所活動報告）がなかなか発信できずにいる
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・見える形（理解できる形）で情報共有に努め、個々に応じた疎通形態を工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・法人主催のお祭りを開催し、利用児・家族も訪問していた。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・定期的に実施し、その際に見直しを行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・てんかん発作などは、医師の指示書を預かっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食物の摂食する機会がない。ただし、食物アレルギーは聴取している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・業務日誌にヒヤリハットを記載し、全職員で回覧している。	・職員の確認ミスは、同じ事案が生じており、抜本的な改善策が出せずにいるため、見直ししていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修の機会を確保するとともに、月1回の職員会議において、虐待や身体拘束に繋がる芽を話し合っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人大和しらかし会 放課後等デイサービス事業どんぐり		
○保護者評価実施期間	令和7年10月6日		～ 令和7年10月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	86	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和7年8月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた専門的な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員各々の意見や考えが自由に話せる風土づくり</li> <li>所内での勉強会や外部研修の奨励</li> <li>得た知識を職員間で共有しあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論に基づいて説明できるスキルの習得(保護者が関連機関への働きかけ)</li> <li>専門性の確保として研修奨励と人財育成の強化</li> </ul>
2	子育てにおける相談や助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に繋がるような支援を心がけている</li> <li>保護者の家庭力向上に繋がる助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が家族支援が担えるように人財育成を強化</li> <li>家庭生活や保育所等の生活に繋がる、生きた視点の習得</li> </ul>
3	関連機関との連携と目標を同じにしたうえで、こどもと家族の最善を考えた支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連機関への訪問やケース会議に積極的に参加</li> <li>なるべく連携をして、子どもの臨床像を共有できるように努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が連携できるようなスキルを身につけていくこと</li> <li>全ケースについて連携は難しいため、必要に応じて実施していく</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時代に応じた通信手段(SNSやホームページなど)の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>共働き家庭も多く、迅速な電話連絡ができないことも多い。一方で、通信手段が多岐に増えると対応できる職員に限られてしまう。</li> <li>親子同伴であるため、利便性の高い通信手段の利用の必要性がやや低い。</li> <li>定期的なホームページの更新やどんぐり通信の発行ができずにいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在利用しているLINEでの通信手段、グループフォームなどの活用は継続。</li> <li>定期的なホームページ更新は、負担にならない回数を決め実施していく。</li> </ul>
2	地域交流や保護者交流の機会提供の弱さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児や利用ご家族はそれぞれに地域交流をされているため、事業所独自の必要性を感じられない。</li> <li>今年度は職員の人手が足りず、懇談会などの実施を見合わせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを決めて懇談会が企画できないか、年間計画を立てて決定していきたい。</li> </ul>
3	非常時への対応に対する家族への周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示はしているものの、児童の受け渡しやフードバックは玄関先で行っているため、掲示物が確認できない。</li> <li>契約時に説明はしているものの、説明内容が煩雑で理解しがたい部分もあるかもしれない</li> <li>非常時に対する複数のマニュアルが存在し、職員も十分に把握できていないこともある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄関先でも掲示が確認できるような環境設定を検討。</li> <li>定期的に避難訓練を実施していることを継続。</li> <li>要点を押さえた説明に努める。</li> <li>職員とは定期的に読み合わせを実施。</li> </ul>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人大和しらかし会 放課後等デイサービス事業どんぐり

公表日 令和 8年 1月 15日

利用児童数 86名

回収数 42(重複回答あり)

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	36	6				・活動内容によっては十分なスペースではない場合もありますが、引き続き、支援に支障が生じないように務めてまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	40	2				・目標やねらいに応じて、子どもたちの学びや成長が促せるよう職員数を調整している場合があります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	2		3		・建物の構造上、変更ができないため、段差や注意すべき場所は職員同士で声をかけあつて留意してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36	4		2		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	41			1		・各職員の研修奨励し、専門性を高めております。支援内容や専門性について疑問点などがありましたらお気軽にお問い合わせください。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	39	2		1		・支援プログラムは大和しらかし会のホームページで公表しております。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	41	1				・個別支援計画についてご不明な点や気になることがありましたら、是非職員にお伝えください。現在の状況を教えていただくことで、目標や支援の方法を見直す貴重な機会になります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	40	2				・家族支援にも力を入れておりますが、全利用者ご家族へ十分とは言い切れません。お困りや気になることがありましたら、お気軽にお声がけいただければと思います。相談のリソースの一つとしてご利用くださいませ。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39	3				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	39	3				・個々の目標によっては、同じ活動内容を設定し習得状況や経験の定着を図る場があります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	8	12	16	全項目チェック1	・地域の他の子どもと活動する機会については以前から計画はありません。月1～2回頻度の療育となりますので、環境を大きく変えず、個々の特性に応じた支援を実施し、達成感を誇り、自己肯定感を高めたりする活動を中心に取り組んでおります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	42					・説明内容が多岐にわたり、煩雑となりやすいため、ご不明なことがありましたら、お気軽にお尋ねいただければと思います。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	41	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27	9	1	4	未回答1	・研修会の情報はLINEや掲示をしております。引き続き実施していく予定です。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	39	3				・お話できる時間が限られており、十分な時間が取れず申し訳ありません。限られたなかで共通理解ができるよう、務めてまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	37	6	1		2項目チェック1	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	40	2				・職員からの何気ない一言でも気になることや疑問がございましたら、是非お知らせください。考えや思いを共有することが子どもの成長や支援に繋がると考えております。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	12	8	11			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36	4	2		・些細なことでも気になることや思いなどがございましたら、是非職員にお声かけいただけると幸いです。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	42				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32	6	4		・主にLINEを活用して情報などを発信しております。どんぐりだよりの発行ができておらず改善していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	39	1	2		・個人情報の取り扱いについては全職員が留意して取り組んでまいります。ただし、気になることがございましたら、どうぞお知らせくださいませ。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	35	1	6		・各マニュアルは皆様がお手に取れる位置に掲示しております。また、3～4か月に1回の頻度で遊難訓練を実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	37	2	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	40		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	2	9		・事故が発生しないよう引き続き職員間で声をかけあい留意をしております。また、発生後の対応についても、定期的に職員で読み合わせを実施しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	41				未回答1
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	38	2	2		・「こんな活動がしたい！」などのご希望も是非お知らせください。達成可能な内容であるかも1つですが、相手に伝える、プレゼンするなどの練習にもなります。また職員がご本人の思いを知る貴重な機会にもなります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	39	2			未回答1 ・事業へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。よりよいものへの改善策を検討しつつ、ご本人とご家族が相談しやすいと思える雰囲気は今後も職員一同心がけてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人大和しらかし会 放課後等デイサービス事業どんぐり				公表日	令和 8年 1月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		・部屋を分けたり子どもを入れ替える形で適切なスペースが確保できるように配慮している。	・建物の構造的制約や経年劣化については、定期的な点検と活動内容の調整を心がけていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・利用人数や子どもの特性に応じてグループに入る職員数を調整している。また密にならないように配慮もしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		・お子さんに合わせた支援を都度考え、講じている。 ・必要に応じてパーテーションを利用している。	・玄関や洗面所に段差はあるが、現在利用しているお子さんについては、安全に通ぐ上で許容範囲内であると捉えている。引き続き、職員で見守り、事故につながらないように配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・活動に合わせた空間調整に努めている。	・小学校中学年程度になると身体も大きくなるため、スペースが十分とは言い切れないこともあり、活動内容を工夫していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		・個別のスペースや個室など、状況に応じて利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		・グループ前は、職員全員で活動の流れと注意点を確認している。グループ後は振り返りと情報共有、支援方法の検討を行っている。	・振り返り時間が十分に取れないこともあり、スケジュール調整が課題。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・保護者のご意見や意向については、全職員に周知し、検討し、業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・日々、意見が言いやすい雰囲気大切にしており、月1回の職員会議やグループの振り返りなどで業務改善に繋がる話題が出ている。	・職員同士が腹藏なく建設的な意見が言える風土づくりに努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・法人として行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・法人内外の研修に参加している。 ・法人とレ・ランニングを導入しており、いつでも資質向上が実施できる機会を確保している。	・研修の受講にあたり、支援を外れるため、職員体制を柔軟に調整できるようになることが目標。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		・各種の情報や検査結果および保護者へのアンケートを複合して課題を抽出し作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		・こどもの最善の利益を考慮した検討に努めているつもりであるが、限りがないため、今後も多角的視点から検討をしていきたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・グループ前には、必ず個別支援計画の読み合わせを行い、計画に沿った支援のシュミレーションをしている。	・支援計画によっては抽象度が高い目標があり、職員によって理解の度合いが違うため、計画立案を工夫していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		・フォーマル、インフォーマルのどちらも使用し、子どもの実態に沿った支援ができるように努めている。	・インフォーマルアセスメントは職員間で差異が生じやすいため、一定の資質が保てるよう検討をしていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			・家族支援については各職員が面談や関係機関連携がとれるように支援のスキルを磨いていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		・年間計画をチームで立案し、進め方も全職員の意見を参考にしている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	活動が固定化しないよう工夫しているもの、スキルアップを目的にあえて固定化させる場合もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後に十分な時間が確保できず、共有が日をまたいでしまうことがあり、モレがないようなシステム構築が課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・職員間で確認しあって正しく記録を取るようになっている。 ・記録が済んだら該当表にチェックを入れ、記入モレがないように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・“地域社会との交流の機会の提供”については、近隣のお買い物など機会の提供をしている。ただし、基本的に小学校や家庭生活で得られている経験でもあるため、交流に対するスキルや手続きの習得に重きを置いている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・選択肢（言語や視覚などのツールを使用）を設け、自己決定ができる機会を大切にしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・関連機関との連携は非常に大切な1つと考えており、会議に参加する前に職員の間で考えをまとめる機会を設けている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		同上
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・送迎はないため、支援内容に関する学校との情報共有を実施している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			別の事業所へ移行)のため該当しないものと考えている。必要に応じて他機関への情報共有は随時行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	・交流する機会は設けていないが、地域生活への参加を見据えて日々支援にあたっている。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	・現在は法人内の別の事業所の職員が参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時に短時間だが話す機会を設けている。必要に応じて面談を実施している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・法人全体として家族の対応力向上に力を入れており、研修を案内や情報提供をしている。	・ご案内が1か月前程度のこともあり、お仕事をされている親御さんに向けて、先々の予定を早めに教えて頂くことが課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・子どもの意向が盛り込める場合にはその限りではない。また、ご家族の意向は必ず聴取している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・親父の会は同法人で集まりをしている。また参観と懇談会を催し、交流する機会を設定している。	・きょうだい同士で交流する場は設けていないため、該当家族には紹介できる研修会や交流の場の案内を努めている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・契約のときに、苦情（ご意見など）についての案内と、窓口を必ず説明している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・法人の会報は定期的に発行している。 ・お知らせなどLINEを活用している。	・今年度はどんぐりだよりを発行できずにおり、定期発行ができるように年間業務に加える。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・見える形（理解できる形）で情報共有に努め、ここに応じた疎通形態を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・法人主催のお祭りを開催し、利用児・家族も訪問していた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・定期的に実施し、その際に見直しを行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・てんかん発作などは、医師の指示書を預かっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・医師の指示書の提出はしていないが、事前に保護者から食物アレルギーの確認を取っている。 ・食物を接種する機会にはその都度、事前に保護者から確認を取っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・業務日誌にヒヤリハットを記載し、全職員で回覧している。	・同事態のヒヤリハットが生じやすいため、事案を絞り込んで抜本的な改善策を講じる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修の機会を確保するとともに、月1回の職員会議において、虐待や身体拘束に繋がる芽を話し合っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				